

5. 研究発表・事例報告内容

■ 6月23日(火)12:00~17:30・24日(水)9:30~11:00 ポスター発表

会場：明石市生涯学習センター 9階 ホワイエ

「シアトリカル・プラネタリウム」のつくりかた 遠山 亜希子 (個人・雑貨団)

雑貨団とプラネタリウム施設と施設のみなさまと、どのように作品を製作していくのか。実製作の様子を報告いたします。

「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット 平成20年度科学映像クリエイター養成コース修了作品の紹介」

口頭発表要旨参照

平井 明(国立天文台 天文情報センター)

「三分割デジタル全天プラネタリウムの開発と会員カード発行」(ポスター)

口頭発表要旨参照

春日 了(プラネターリウム銀河座)

「つくばエキスポセンターの番組紹介」

菊川 真以((財)つくば科学万博記念財団 つくばエキスポセンター)

つくばエキスポセンターは2006年リニューアルをして以後、一般番組として年4本のオリジナル番組を制作してきました。過去、制作した番組の紹介をします。

「日食を100倍楽しむ」番組自作顛末記

野崎 洋子(東大和市立郷土博物館)

素材が集まれば、番組ができるかもしれない。館担当者は過去に海外遠征など、日食観測の経験があり、いろいろなつながりから日食の素材を集めることができました。プロダクション制作とは一味違う自主制作の日食番組を紹介します。

「宿泊施設と連携した貸切プラネタリウムプラン」太田 哲朗(島根県立三瓶自然館 サヒメル)

家族や恋人、グループで。サヒメルのプラネタリウムを貸切にして、記念日の星空や思い出の曲を楽しめる国民宿舎さんべ荘の宿泊プラン“ひょっとして...日本でここだけ?”プランについてご紹介します。

<世界天文年>

「世界天文年2009“フォトモザイクポスター”製作協力のお願い

三島 和久(倉敷科学センター)

世界天文年2009企画「めざせ1000万人!」に関連して製作を目指す「フォトモザイクポスター」の紹介とモザイク構成素材となる公開可能な日本全国の天文施設の画像、観望会風景をはじめ、天文をテーマとした画像提供のお願い。

<世界天文年>

「全国プラネタリウム★マップ」 山下しのみ(四電ビジネス(株)/さぬきこどもの国)

世界天文年のプラネタリウムが果たす天文施設としての役割は大変大きなものがあります。プラネタリウムや科学館を訪れた人に日本全国のプラネタリウムマップを見てもらい、身近なプラネタリウムの存在をより多くの人に知ってもらうことを目的としています。

「世界天文年用 素材・番組の制作と経過(成果)

高部 哲也((株)リブラ)

ガリレオ関係のイラスト・写真、世界天文年用番組や素材の紹介をいたします。

■ 6月23日(火) 14:15~16:45 口頭発表 (質疑応答 16:10~16:45)

会場：明石市生涯学習センター 9階 ホール

14:15 「金星気象探査衛星・プラネットCのEPO活動におけるJPAとの連携」

木村かおる(個人・(財)日本科学技術振興財団/宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部)

2010年に打ち上げ予定の金星気象探査衛星・プラネットCでは、プラネタリウム館などを基盤に教育普及活動を展開したいと考えている。2008年12月にはJPAの呼びかけで、JAXA宇宙科学研究本部(相模原市)の見学会を実施し、プラネットCや金星探査の内容についての紹介、衛星本体の仮組み立ての様子を見ていただいた。今後打ち上げまでの間に、愛称募集や金星を見ようキャンペーンなどの企画、動画を含む素材や情報の提供などの広報活動について、JPAとどのような協力体制が組めるかを検討したい。

14:30 「DVD太陽のなぞに迫る」 中道 晶香(群馬県生涯学習センター)

太陽観測衛星『ひので』の科学成果を普及し、太陽への関心を持ってもらうため、ひのでデータ解析WGは2作目のDVD「太陽のなぞに迫る」を製作し、プラネタリウムなどの社会教育関係者と小中学校などの教育関係者へ配布しました。ここでは目的別の活用例を紹介します。

14:45 「実感の伴った理解につながる参加型学習投影づくり」加藤 浩幸(岐阜市科学館)

新しい学習指導要領で大切にされている「実感の伴った理解」に重点を置いた実践です。児童・生徒が自ら確かめて学ぶプラネタリウム学習となるように体験活動や問題解決活動の場を大切にしています。また、教育施設研修員制度や教員のプラネタリウム指導を通し、天文指導の充実と開かれた科学館づくりをしています。

15:00 「科学館における全天周科学映像作品の企画」 飯山 青海(大阪市立科学館)

全天周映像作品「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」の制作にあたって、大阪市立科学館学芸員である発表者が作品の企画段階から携わった。科学館で上映することを目的とした映像作品の企画について、科学館学芸員としてこだわった点や気を配った点について発表する。

15:20 「シミュレーション用スクリプト制作の実際」 澤村 泰彦(平塚市博物館)

プラネタリウムは今、大型のリアルタイムシミュレーション映像という画期的なツールを獲得しつつあります。その実行のためのスクリプトにはどのようなプロセスを要するのか、当館の「ステラドームプロ」を例に、2年間の悪戦苦闘と課題克服への努力を赤裸々に語ります。

15:35 「富山市科学博物館のプラネタリウム更新」 布村 克志(富山市科学博物館)

4月24日にリニューアルオープンしたプラネタリウムについて デジタルプラネタリウムへの更新。

15:50 「三分割デジタル全天プラネタリウムの開発と会員カード発行」(ポスター)

春日 了(プラネターリウム銀河座)

他にない試みとして、三分割で全天とプロジェクタで投影する計画を1年かけて設置。シンプルな三分割の利点を説明。また、来館者に会員カードを作っている。メンバーズカードのようで、回数や得点が毎回印字できる優れものである。

会場：明石市生涯学習センター 7階 学習室1A

14:15 「ワンコイン プラネタリウムの取り組み」溝口小扶里・小野寺正己(仙台市天文台)

職員及び市民参加の創造枠として、20分で100円で行うイベント開催。今回は、poetry readingの取り組みを発表。

14:30 「大きな宇宙の小さな巡回展」小野 夏子(個人)・湯嶋 稔(米子市立児童文化センター)

今年は世界天文年。何かイベントがやりたいけれど施設も小さいし予算も少ない。そのような施設に朗報です。低予算で小規模の「宇宙巡回展」を提案します。

**14:45 「星を誇れるまちづくり~第10回ライトダウン甲府バレー「星つむぎの歌が聴こえる」を軸に」
高橋 真理子(山梨県立科学館)**

ライトダウン甲府バレーは「無駄な明かりを消して美しい星空を取り戻そう」という呼びかけで、昨年第10回を迎えた活動である。一方、2007年から行っていた宇宙連詩山梨版「星つむぎの歌」が昨年1月に完成、3月にはスペースシャトルのウェイクアップコールとなった。第10回ライトダウン甲府バレーは、「星つむぎの歌が聴こえる」をキャッチコピーに、非常に多くの人たちが共に空を見上げ、歌によって心つながり時間となった。本稿では、ライトダウンをテーマにしたオリジナルのプラネタリウム番組のことも含め、当館の取り組みを紹介する。

15:00 「星座ビンゴ」 山西 正博(鳥取市さじアストロパーク)

さじアストロパークのイベントで星や星座に親んでもらうため、オリジナルな「星座ビンゴ」や「宇宙ビンゴ」を作りましたので、紹介します

15:20 「視覚障がい者対応プラネタリウム「Feeling Planetarium」の取り組み」

杉中 慎(福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ)

昨年度、視覚障がいのあるなしに関わらず、“共に感じて共に楽しむ”プラネタリウム番組「Feeling Planetarium」を作り、2月に一般公開しました。約1年間試行錯誤して番組制作したこの取り組みを苦労話を交えながら、ご紹介します。

15:35 「世界天文年公認イベント みんなでうたおう・ほしのうたプロジェクト」

小林 道夫(カガクノトビラプロジェクト)

本プロジェクトは世界天文年の周知に役立つような星をモチーフにした楽曲を製作し、多くの人々が共感・共有できるものにしたい、という思いからスタートしました。楽曲は無事完成し、今後一人でも多くの方にこの思いを共有いただくためJPA参加団体のみなさまにも積極的にこの楽曲をご利用いただきたいと考えております。また、特設サイトから全国のミュージシャン(プロアマ問わず)からのカバーを受け付け、音楽業界からも盛り上げを図ってまいります。ぜひとも、この主旨にご賛同いただき、協力館としてお名前を連ねていただくことで、このプロジェクトをプラネタリウム業界における「世界天文年のアイコン(象徴)」としたいと考えております。何卒ご協力の程、お願い申し上げます。

15:50 「All Sky Collection」 田部 一志((株)リブラ)

これまで撮りためた600本のAll Skyの紹介。作り方。撮り方の説明。

会場：明石市生涯学習センター 7階 学習室1B

14:15 「国際科学映像祭ドーム&立体イベント2009を終えて」

伊東 昌市 (国立天文台 天文情報センター)

イベント2009では、16会場で科学映像コンテンツを上映し、13会場にはスタンプラリーを実施していただいた。会場館のほとんどはプラネタリウム等ドーム・シアターである。イベントの主旨は将来の国際的な科学映像祭の公催を目指すもので、プラネタリウムや科学館に優れた科学映像コンテンツが普及することを目論んでいる。

14:30 「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット 平成20年度科学映像クリエイター養成コース修了作品の紹介」

平井 明 (国立天文台 天文情報センター)

平成20年度科学映像クリエイター養成コース：イメージコースは10名の受講生が3つのグループに分かれて、修了作品を制作した。その3作品を発表する。

14:45 「分離融合の観点に基づくプラネタリウム番組：制作の目的」

稲見 華恵 他 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 (総合研究大学院大学))

サイエンス・コミュニケーション(SC)の現状として、既に特定の研究分野に関心がある市民が集中して参加していることが多い。我々は“分離融合SC”をテーマに、従来の参加者に加え、新たな層も取り込むSCを試みている。過去にも分離融合の教材素材として、江戸時代に伝わる星図を星座早見盤化したり、炭素について宇宙誕生から歴史年代測定のために用いられるまでのアニメを制作した。その一貫として今回は「南米天の川の黒い雲」をテーマに番組を制作した。

古代インカの人々は、星と星をつなぐ星座だけでなく、星の少ない領域の形を星座としていた。北半球に住む人々には想像しづらいこの逆転の宇宙観は御伽噺や神話としてインカの人々の生活と密着していた。一方、時代は進み、天文学の分野で写真観測が可能になった頃、暗黒星雲の正体が少しずつ明らかになってきた。前者の文化人類学と後者の天文学、それぞれの観点からとらえた「南米天の川の黒い雲」を軸に話題が展開する。この番組ではひとつの事象を多くの角度からみることの面白さ、人文科学も自然科学も含めた基礎科学の重要性を伝えようとしている。

科学者の立場からみた今回の制作活動および番組配布の方法等については、「分離融合の観点に基づくプラネタリウム番組：研究者による今後の番組制作の可能性と課題」にてお伝えする。

15:00 「分離融合の観点に基づくプラネタリウム番組：研究者による今後の番組制作の可能性と課題」

坂本 成一 他 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 (総合研究大学院大学))

本研究は「分離融合の観点に基づくプラネタリウム番組：制作の目的」で紹介された番組に関する新しい広報普及の試みを提案するものである。この番組は研究者が主体となり制作したデジタルプラネタリウム投影仕様の番組であり、これまでの番組制作とは異なる観点からの取り組みだと言える。本プラネタリウム番組の評価を正しく行い、研究者による今後の番組制作の可能性やその有効性を探るためにも、上映館を探している最中である。

上映に伴う広報普及は総研大の調査研究を手助けするためのものであり、著作権を持つ総合研究大学院大学も所管の宇宙航空研究開発機構も一切の営利を目的としていない。調査研究においては、幅広い世代の視聴者の専門性や興味・関心に基づく映像理解の特性が検討されることから、調査結果は今後の各館の利用者の特性に応じたサービスに寄与するものと考えられる。このため、上映を引き受けてくださる館には番組を「無償配布」する代替としてご協力いただきたい点などの提案を行う。

15:20 「マニュアル投影で使用するデジタル素材の制作」

遠山 御幸(横浜モバイルプラネタリウム)

近年、プラネタリウムの現場にデジタル素材が投影できるハードウェア環境が整いつつありますが、そのような環境で使用できるデジタル素材の開発に取り組んでいます。今回の発表では、そのプロセスや制作したデジタル動画を紹介させていただきます。

15:35 「星のシルクロード～沖ノ島の祈り」 加藤 治(宗像ユリックスプラネタリウム)

宗像市が世界遺産をめざす「沖ノ島」をテーマとしたプラネタリウム番組です。初日のドーム出展の映像について説明いたします。

15:50 「コニカミノルタプラネタリウムの取り組み 2009」

藤掛 曜平(コニカミノルタプラネタリウム(株))

弊社の納入事例、新製品の紹介、今後の取り組み等を発表します。

6. 地域交流会

■ 6月23日(火) 11:30～12:00

会場：明石市生涯学習センター 9階 ホール・研修室

それぞれの地域ごとに集会を持ち、交流を図る場です。今後、各地で開催する研修会などの提案や地域ワーキンググループとしての活動について話し合う時間です。

北海道・東北・甲信越・北陸・九州沖縄 9階 研修室

関東・東海・近畿・中四国 9階 ホール

・部屋を分割して各地区でお集まりください。